

感謝税

宇美町立宇美中学校3年 安藤 雅

「あ、知ってる人。」

流れていたニュースが目に入る。そこにはとある芸能人が“脱税”をしたという内容があった。これをきっかけに私は“税”について知ろうと思った。私はきっと周りの人よりも多くの税に関わっているだろうと考える。

理由は一つ。私は小児慢性特定疾病を患っているからだ。私は治療のために機械を扱うのだが、その物品自体が高額なのである。他にも機材や薬を扱うため、それなりの治療費がかかる。しかしその負担を減らしてくれるのが税だ。また毎年私と同じ病気をもつ子どもが集まってキャンプを行うのだが、その施設も税金が使われている。身近なところで税が使われ、改めて私は税に助けられているのだと感じた。

外国では消費税が25%の国もある。しかし、医療費や教育費の免除が行われているなどとしてその国は“世界一幸せな国”とも言われている。免除という点では私達学生が大きく税に関わっている。それは教科書の無償化である。そして高校では授業料が無償化され、これからもお世話になり続けるだろう。

ところで、この文中で一番伝えたいことをとある形で表していることに気づいただろうか。この作文の段落の頭文字を一文字ずつ読むと、「ありがとう」とでてくる。この文中で隠された想いがあるように、税があるという当たり前の中で隠れている意味を知ることが大切だと思う。そして「ありがとう」と思えるとそれは“感謝税”といえるのではないだろうか。お金やものには変えられないが、何よりも忘れてはならない感情であり、十分な価値がある。だから私は人一倍の感謝税を送ろうと思う。

産まれてから今もこれからもずっと税と関わり支えられていく私にできることは何かと考える。それは「忘れないこと」だと思う。消費税が高くなるにつれて、中には不満をもつ人もいるだろう。だけど、その税が幸せな未来への一歩だとしたら？そう思うとわくわくしてたまらない。誰もが税を支払い、誰もが税に助けられているということを決して忘れてはならない。幸せな未来の国造りのために私は今日も感謝税を支払う。